千葉市立高等学校改革の評価・検証

～　最終まとめ　～

本　　編

平成２６年３月

千　葉　市　教　育　委　員　会

は　じ　め　に

本市では、昭和３４年４月に千葉市立千葉高等学校（以下「市立千葉高校」という。）を、昭和５４年４月に千葉市立稲毛高等学校（以下「市立稲毛高校」という。）を開校いたしました。両校とも文武両道を標榜し、活発に部活動を行うとともに、高い進学実績を誇っております。

また、市立千葉高校には、昭和４５年に理数科を、市立稲毛高校には、平成２年に国際教養科を設置し、それぞれの特色ある学科が学校運営に生かされるなど、普通科にも好影響を与えて参りました。

平成３年４月に中央教育審議会から提出されました答申「新しい時代に対応する教育の諸制度の改革について」を皮切りに、情報化や国際化をはじめとする社会の変化と多様な進路ニーズや教育ニーズに対応するため、全国的に高等学校改革が広がる中、本市においても、平成１７年６月に、魅力ある高等学校づくりを推進するため、単位制高等学校や中高一貫教育などの研究を進め、市としての高等学校改革の方針として「千葉市立高等学校改革基本方針」（以下「基本方針」という。）を策定いたしました。

この基本方針に基づき、市立千葉高校では、平成１９年度入学生から、これまでの理数教育の実績を生かし、多様な進路ニーズに対応する単位制を導入し、市立稲毛高校では、平成１９年４月に、これまでの英語教育の先進的な取組を発展させ、中高一貫教育を導入し、市立稲毛高校附属中学校を開校いたしました。

本市では、平成２１年３月に「千葉市学校教育推進計画」を策定し、その具体施策の中に「市立高等学校教育の充実」、アクションプランとして「市立高等学校改革の評価・検証」が位置付けられていること、平成２２年度は、市立千葉高校の卒業生の進路状況、市立稲毛高校の内進生や市立稲毛高校附属中学校の生徒の状況等の調査に相応しい年度であることから、平成２３年２月に本市の高等学校改革のこれまでの成果と課題を洗い出し、「中間まとめ」として整理いたしました。

そして、平成２５年３月には市立稲毛高校初の内進生が卒業し、その進路状況を調査することが可能となり、平成２２年度に作成いたしました「千葉市立高等学校改革の評価・検証～中間まとめ～」における課題への対応とこれまでの成果を改めて検証するとともに、市民の多様なニーズと社会の変化に対応できる魅力ある市立高等学校づくりの更なる推進に資するため、本年度「千葉市立高等学校改革の評価・検証～最終まとめ～」を行いました。

このまとめを通じ、本市の高等学校教育の更なる充実に努めて参りますので、市民の皆様の一層のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

平成２６年３月

千葉市教育委員会

目　　次

Ⅰ　千葉市の高等学校改革・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１
１　改革の背景・経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１
２　千葉市の高等学校改革の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２

Ⅱ　評価・検証の目的と進め方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４
１　目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４
２　進め方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４
（１）評価・検証の年度（中間まとめと最終まとめ）・・・・・・・・・・・　４
（２）「千葉市立高等学校改革　評価・検証研究会」・・・・・・・・・・・　４
（３）各種調査（平成２５年度）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５

Ⅲ　改革の成果と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　８
１　市立千葉高校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　８
２　市立稲毛高校・附属中学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１３

Ⅳ　最終まとめを終えて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２０
１　中間まとめにおける改革の課題への対応・・・・・・・・・・・・・・・・２０
２　改革の成果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２０
３　課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２１
４　今後の方向性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２２

平成２５年度千葉市立高等学校改革　評価・検証研究会・・・・・・・・・・・２３

別冊　資料編　各種調査の結果
１　市立千葉高校
（１）基本調査結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１
（２）小・中学校長代表対象意見交換会結果・・・・・・　３
（３）聞き取り調査結果・・・・・・・・・・・・・・・・　４
（４）アンケート調査結果・・・・・・・・・・・・・・・　７
２　市立稲毛高校・附属中学校
（１）基本調査結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２０
（２）小・中学校長代表対象意見交換会結果・・・・・・　２５
（３）聞き取り調査結果・・・・・・・・・・・・・・・・　２７
（４）アンケート調査結果・・・・・・・・・・・・・・・　２９

Ⅰ　千葉市の高等学校改革

１　改革の背景・経過

平成３年４月に中央教育審議会から提出された答申「新しい時代に対応する教育の諸制度の改革について」を皮切りに、情報化や国際化をはじめとする社会の変化と多様な進路ニーズや教育ニーズに対応するため、全国的に高等学校改革が広がった。

本市教育委員会では、魅力ある高等学校づくりを推進するため、「千葉市立千葉高等学校改築基本構想及び（同）基本計画」・「千葉市における中高一貫教育について（第２次報告）」（平成１４～１５年度）等の答申を踏まえ、教育委員会内部に設置した検討会議「千葉市立高等学校在り方研究会」（平成１５年度）で聴取した学識経験者、保護者等の外部の意見や提言等を総合的に勘案し、千葉市としての高等学校改革の方針として、平成１７年６月に**「千葉市立高等学校改革基本方針」**（以下**「基本方針」**という。）を策定した。

その中で、**千葉市立千葉高等学校**（以下**「市立千葉高校」**という。）については、千葉大学との連携事業やスーパーサイエンスハイスクール※1研究で培った研究機関や研究者との連携を生かした出張講義等を教育課程に取り込み、多様な進路ニーズに対応する科目を設置し、単位制を導入することが適当であるとされ、平成１９年度入学生（普通科）から、進学を重視することができる単位制に移行した。

また、**千葉市立稲毛高等学校**（以下**「市立稲毛高校」**という。）については、スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール※2研究で培った英語教育の先進的な取組を発展させ、中学・高校の６年間の計画的・継続的な指導により、コミュニケーション能力の飛躍的な向上を目指す中高一貫教育を導入することが適当であるとされ、平成１９年４月に、「真の国際人の育成」を中高一貫教育目標とし、千葉県初の併設型公立中高一貫教育校である**千葉市立稲毛高等学校附属中学校**（以下**「附属中学校」**という。）が開校した。

※1　スーパーサイエンスハイスクール（通称「SSH」）

文部科学省が、将来の国際的な科学技術系人材を育成することを目的に平成１４年度から行っている事業で、指定された高等学校は高度な理数教育に取り組むとともに、学習指導要領の枠を超え、独自のカリキュラムによる授業や、大学・研究機関と連携した講座や実習などを行う。なお、指定期間は５年で、国から総額約６千万円の助成を受けることになり、期間を終え、再指定を受けることもある。

※2　スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール（通称「SELHi」）

平成１４年度から開始された日本の高等学校における先進的な英語教育を研究するための文部科学省主導のプロジェクト。指定された高等学校は、研究予算が支給され、重点的に英語教育に取り組むこととなり英語教育に重点をおいた教育課程・カリキュラムの開発や中学校や大学との英語教育の面での効果的連携のあり方を研究していく。一度SELHiに指定された場合、以後３年間研究活動に取り組むこととなる。なお、本事業は平成２１年度をもって終了した。

２　千葉市の高等学校改革の概要

	市立千葉高等学校	市立稲毛高等学校
背景	○情報化社会や国際化社会をはじめとする社会の変化 ○進路ニーズや教育ニーズの多様化 →これらに対応するとともに、これまでの文武両道の教育の伝統を生かした魅力ある市立高等学校づくりを推進するため、平成１７年６月に「基本方針」を策定	
経緯	平成１３年度　「千葉市における中高一貫教育について」千葉市中高一貫教育研究会議報告書 平成１４年度　「千葉市立千葉高等学校改築基本構想」 「千葉市における中高一貫教育について」千葉市中高一貫教育研究会議第二次報告書 平成１５年度　「千葉市立千葉高等学校改築基本計画」 「千葉市立高等学校在り方研究会」 平成１７年６月「基本方針」	
「基本方針」に基づき導入した制度	千葉大学との連携事業やスーパーサイエンスハイスクール研究で培った研究機関や研究者との連携を生かした出張講義等を教育課程に取り込み、多様な進路ニーズに対応する科目を設置し、普通科に**単位制を導入**	スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール研究で培った英語教育の先進的な取組を発展させ、中学・高校の６年間の計画的・継続的な指導によりコミュニケーション能力の飛躍的な向上を目指す**中高一貫教育を導入**
導入時期	平成１９年度入学生から	平成１９年度に附属中学校開校
特色	**進学重視型単位制高等学校** １・２年生のうちに必修科目をほぼ終わらせ、３年生で独自に設定した科目も含めた多様な選択科目から、進路希望に沿って学ぶことができるようにする。全員が１日45分７時間授業を受ける。	**真の国際人を育成する中高一貫教育** 中学では、年間総授業時数が標準1,015時間のところ1,185時間を展開し、中高６年間の一貫教育の利点を生かし、系統的なカリキュラムに基づく継続的な指導と先取り教育を行う。高校２年次に全員が英検２級を取得でき、卒業までにはTOEIC※で650点取得できることを目指す。
学科・学級数（平成25年度）	全校２４学級 １学年　普通科７学級（単位制） 理数科１学級（　〃　） ２学年　普通科７学級（単位制） 理数科１学級（　〃　） ３学年　普通科７学級（単位制） 理数科１学級（　〃　）	中学校（全校６学級）　各学年２学級 高等学校（全校２４学級） １学年　普通科７学級 （内進生２学級、外進生５学級） 国際教養科１学級 ２学年　普通科７学級 （内進生２学級、外進生５学級） 国際教養科１学級 ３学年　普通科７学級(混合クラス) 国際教養科１学級
施設の状況	平成２０年４月から新校舎（全面改築）供用開始	平成２０年１０月に中学特別教室棟（多目的ﾎｰﾙ）竣工。その他の施設は中高で共用。

※TOEIC：Test of English for International Communication の略称で、国際コミュニケーション英語能力を評価するテスト

（参考１）「基本方針」に基づき作成した周知用資料（平成１７年度）

千葉市立千葉高等学校　単位制導入へ

～千葉市立千葉高等学校は、平成１９年度入学生より、単位制を導入します。～

目指す学校像

２１世紀を拓く有為な人材の育成を図るため、生徒一人一人の個性を伸長し、自主自律の精神を重んじ、個々の能力が最大限に発揮できる意欲と活力の溢れる学校を目指します。
また、高い水準の科学・理数科教育を推進し、高い志を持ち、その実現に向けて挑戦する心身ともに逞しく、豊かな人間性を持つ人材を育成します。

個性・能力の伸長を図る

市立千葉高校

教育委員会

指導・助言・評価
単位制に応じた教員の配置
学習環境の整備充実

連携・協力
大学における学修
大学人による講演・講義

大　学

千葉大、津田塾大、中央大、千葉工大、東邦大、東京学芸大、帝京平成大、カリフォルニア工科大他（SSH 実績）

連携・協力
研究者による講演、講義
研究機関やフィールドなど学校外での学び

研究機関他

放射線医学総合研究所、現代産業科学館、千葉県立中央博物館、日本科学未来館他

単位制のメリット

・学年の枠にとらわれず多様な選択科目を設置できるため、進路希望を考慮した科目を選択することができます。
・自分の進路を考え、学習計画を自分で決めることから、主体的で意欲的な学習を行うことができます。

確かな学力の向上のための充実した指導

○少人数・習熟度別指導
○多様な選択科目の設置
○キャリア教育の推進
○発展的な学習の機会提供
○SSH の成果を生かす教育

千葉市立稲毛高等学校　中高一貫教育導入へ

～平成１９年４月より、千葉市立稲毛高等学校附属中学校（１学年２学級）を開設します～

目指す学校像

①次代を担う有為な人材の育成を図るため、生徒一人一人の個性の伸長と能力の開発に努め、心身ともに健全で、協調性に富む調和のとれた人間を育成する学校。
②英語教育、国際理解教育の先進的な取組みをさらに発展させ、高い学力を持ち、国際感覚の豊かな真の国際人を育成する学校。

個性・能力の伸長を図る

市立稲毛高校、附属中学校
（スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール）

教育委員会

指導・助言・評価
中高教員の配置
ＡＬＴ、外国人講師派遣
学習環境の整備充実

連携・協力
大学人による講演・講義
語学教育　指導・助言

大　学

海外語学研修
ホームステイ
異文化理解

姉妹都市の高校

（海外姉妹都市の高校との交流）
アメリカ・テキサス州ヒューストン市
ラマー高校、ウッドランズ高校
カナダ・ブリティシュコロンビア州ノースバンクーバー市　ハンズワース高校

中高一貫教育のメリット

・高校入試の影響を受けないゆとりある安定した学校生活。
・６年間を見通した教育課程の下で計画的・継続的な教育。
・中高の区分にとらわれない探究的学習
・異学年交流で社会性や人間性を育成。

確かな学力の向上のための６年間を貫く充実した指導

○国際理解教育の充実
○理系文系のいずれにも強い調和のとれた基礎学力の育成
○英語のコミュニケーション能力の育成
○体験活動を重視した学習

Ⅱ　評価・検証の目的と進め方

１　目的

平成１９年度から実施した、本市の高等学校改革の成果と課題を洗い出し、市民の多様な教育ニーズと社会の変化に対応できる、魅力ある市立高等学校づくりのさらなる推進に資することを目的としている。

なお、平成２１年３月に策定した**「千葉市学校教育推進計画」**では、「基本施策（１３）学びの連続性を重視した教育の推進」において、「具体施策３４　市立高等学校教育の充実」のアクションプランとして、「１２２　市立高等学校改革の評価・検証」が位置づけられている。

２　進め方

（１）評価・検証の年度（中間まとめと最終まとめ）

市立千葉高校は、平成１９年度入学生から普通科が順次単位制に移行し、平成２１年度から普通科の全学年で単位制を実施した。平成２２年３月には、単位制に移行して初の卒業生を送り出した。

一方、附属中学校は、平成１９年度に開校し、平成２１年度から全学年がそろい、平成２２年度には、附属中学校の平成１９年度入学生が市立稲毛高校へ進学し、初の内進生となった。

したがって、平成２２年度は、単位制に移行して初の市立千葉高校卒業生の進路状況及び生徒の状況、並びに稲毛高校の内進生及び附属中学校の生徒の状況等を調査するのにふさわしい年度である。さらに、その３年後の平成２５年度には、稲毛高校初の内進生が卒業し、その進路状況等を調査することができる。

このようなことから、評価・検証を実施する年度は、次のとおりとした。

〇平成２２年度　調査の実施と評価・検証（中間まとめ）…　概要版（７ページ参照）
〇平成２５年度　調査の実施と評価・検証（最終まとめ）…　本報告書

（２）「千葉市立高等学校改革　評価・検証研究会」

ア　研究会の位置づけ

評価・検証を行うための研究組織

イ　研究会の役割（平成２５年度）

研究会は、（３）で示す各種調査を実施し、その内容をもとに、改革の「成果と課題」を洗い出し、評価・検証の「最終まとめ」を行い、教育委員会会議に報告する。

ウ　構成員（平成２５年度）

高等学校教育に関わる教育委員会各課の担当者及び小・中・高等学校現場の代表者で構成した。（２３ページ参照）

（３）に記すページ番号は一部を除き別冊「資料編」のもの

（３）各種調査（平成２５年度）

ア　基本調査

（ア）市立千葉高校

次の項目について、改革３年前の平成１６年度と平成２２年度、平成２５年度のデータを比較できるよう調査した。

①生徒数等（**１ページ参照**）

志願倍率（平成１９・２２・２５年度）、在籍生徒数、居住区別生徒数、教員数、部活動加入状況、進路状況

②教育課程（**２ページ参照**）

科目数・学校設定科目の設置状況

（イ）市立稲毛高校・附属中学校

次の項目について調査した。

①生徒数等（**２０～２３ページ参照**）

志願倍率（平成１９～２５年度）、在籍生徒数、居住区別生徒数、教員数と中高兼務の状況、部活動加入状況、市立稲毛高校への進学状況、進路状況

②教育課程（**２４・２５ページ参照**）

科目数・学校設定科目の設置状況

イ　意見交換会

市内小・中学校の校長代表を対象に、次のとおり意見交換会を開催した。

（ア）小・中学校長代表対象：平成２５年１０月２９日実施

①内容

授業参観（市立稲毛高等学校・同附属中学校）

市立高等学校概要説明

意見交換

②参加校長（**本編２３ページ参照**）

（イ）意見交換結果

①市立千葉高校について（**３ページ参照**）

②市立稲毛高校・附属中学校について（**２５・２６ページ参照**）

ウ　聞き取り調査

（ア）市立千葉高校：平成２５年１０月２９日実施

市立千葉高校の教頭、教務主任、生徒指導主事、進路指導主事及びSSH推進部長を対象に聞き取り調査を行った。

（イ）市立稲毛高校・附属中学校：平成２５年１０月２１日実施

市立稲毛高校・附属中学校の副校長、教頭、高校教務主任、中学教務主任、生徒指導主事及び進路指導主事並びに前中高一貫室長・学校活性化委員会事務局、内進１期生担任・現１学年主任、内進１期生３学年主任、適性検査主担当、国際交流部長、特活指導部長を対象に座談会方式で聞き取り調査を行った。

（ウ）調査結果

①市立千葉高校（４～６ページ参照）

②市立稲毛高校・附属中学校（２７・２８ページ参照）

エ　アンケート調査

平成２５年１０月実施

市立千葉高校・市立稲毛高校（内進生・外進生）・附属中学校の生徒・保護者及び卒業生を対象にアンケート調査を行った。

調査結果

①市立千葉高校（７～１９ページ参照）

②市立稲毛高校・附属中学校（２９～４１ページ参照）

千葉市立高等学校改革の評価・検証　～中間まとめ～　概要

平成２３年２月　千葉市教育委員会

背景・経緯

情報化社会や国際化社会をはじめとする社会の変化と進路ニーズや教育ニーズの多様化

→これらに対応するとともに、これまでの文武両道の教育の伝統を生かした魅力ある市立高等学校づくりを推進するため、平成１７年６月に**「千葉市立高等学校改革基本方針」**を策定した。

→同方針に基づき、**市立千葉高校には平成１９年度入学生より単位制を導入**するとともに、**市立稲毛高校には中高一貫教育を導入し平成１９年度に稲毛高校附属中学校を開校**した。

改　革

市立千葉高校

千葉大学との連携事業やスーパーサイエンスハイスクール研究で培った研究機関や研究者との連携を生かした出張講義等を教育課程に取り込み、多様な進路ニーズに対応する科目を設置し、普通科に**単位制を導入**した。

特色　進学重視型単位制高等学校

市立稲毛高校

スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール研究で培った英語教育の先進的な取組を発展させ、中学・高校の６年間の計画的継続的な指導によりコミュニケーション能力の飛躍的な向上を目指す**中高一貫教育を導入**した。

特色　真の国際人を育成する中高一貫教育

評価・検証の目的と進め方

改革後４年目となる中で、市民の多様な教育ニーズと社会の変化に対応できる魅力ある市立高等学校づくりのさらなる推進に資するため、**「千葉市立高等学校改革　評価・検証研究会」**を組織して、本市の高等学校改革のこれまでの**成果と課題**を洗い出し、中間まとめとして整理する。

改革の成果

「基本方針」に基づく本市の高等学校改革は良好な成果

１　市立千葉高校及び稲毛高校・附属中学校は進路ニーズや教育ニーズの多様化に適切に対応できており、生徒・保護者の満足度はかなり高い。

○「総合的に判断すると市立千葉高校に満足している」の問いに対して、生徒の82%・保護者の90%が「満足」と回答

○「総合的に判断すると附属中学校に満足している」の問いに対して、生徒の85%・保護者の97%が「満足」と回答

２　市立千葉高校の「多様な進路ニーズに対応した進学重視型単位制」及び稲毛高校・附属中学校の「真の国際人を育成する中高一貫教育校」という改革の特色が、市民には明確でわかりやすい。また、実際にその特色が生かされ教育効果を上げている。

○市立千葉高校の４年制大学への現役進学率が、平成15年度卒業生の50.5%に対して、平成21年度卒業生は72.7%と上昇

○市立千葉高校の国公立大学現役合格者数が平成19年度25人・20年度24人に対して、平成21年度は40人に増加

○附属中学校生徒の９割以上が中学３年在学時に英検準２級（高校中級レベルに相当）を取得

３　志の高い教職員とそれに応える生徒のやる気、さらには両校の教育活動に対する行政の支援が相乗効果として表れている。

４　これまでの文武両道の教育の伝統と市立千葉高校の理数教育及び稲毛高校の国際理解教育の成果が生かされている。

改革の課題

１　学校の特色や改革の成果等についてのアピールについては、さらなる工夫が必要である。（小中学校への授業公開、千葉市教育研究会を通じた交流等）

２　稲毛高校・附属中学校の施設設備の改善が必要である。（部活動等の活動場所の確保等）

千葉市教育委員会
教育総務部企画課
学校教育部学事課
☎ 043-245-5908（企画課）
043-245-5928（学事課）

Ⅲ　改革の成果と課題

１　市立千葉高校

※表中の「満足」の割合は、アンケート調査結果の「とても満足している」と「やや満足している」を合わせたものである。

※表中の「重視」の割合は、アンケート調査結果の「とても重視した」と「やや重視した」を合わせたものである。

※アンケート調査結果の(　)内の数値は、平成２２年度に行った中間まとめの時の数値である。

※表中のページ番号は、別冊「資料編」の参照ページを表している。

※考察は、「研究会」の中で出された意見を基本としている。

No	項目	成果		課題
1	全体としての改革の成果	アンケート調査	○「総合的に判断すると市立千葉高校に満足している」の問いに対して、生徒の76％(82％) p.10、保護者の93％(90％) p.14、 卒業生の97％p.16が「満足」と回答している。 ○「充実した施設・設備」に生徒の89％(82%)p.10、保護者の98％(89%) p.14が「満足」と回答している。 ○卒業生が「特に学力の向上に有効だったもの」として、「充実した設備」「１日７限授業」等を挙げている。p.15 ○卒業生の68％が、市立千葉高校での学習活動が卒業後の進路に生かされていると感じている。p.16	
		考察	**※学校への満足度は高く、全体として改革は良好な成果を収めている。** ○進学重視型単位制に伴い、教員の加配が認められ、多様な選択科目の開設やSSHなどの特色ある教育が可能になっている。 ○１年生から徹底した進路ガイダンスを実施したことで、幅広い教科に対する生徒の学ぶ意欲が向上している。 ○理数教育の成果が、十分浸透しており、卒業生の理系大学への進学率が高い。	

<table>
<tr><th>No</th><th>項目</th><th colspan="2">成果</th><th colspan="2">課題</th></tr>
<tr><td rowspan="4">２</td><td rowspan="4">多様な進路ニーズに対応した進学重視型単位制</td><td>基本調査</td><td>○４年制大学への現役進学率が、平成１５年度卒業生の50.5%に対して、２１年度卒業生は72.7%、２４年度卒業生は73.0%と上昇した。p.2
○国公立大学現役合格者数が、平成１５年度20人、２１年度40人に対して、２４年度は47人に増加した。p.2</td><td rowspan="3">聞き取り調査</td><td rowspan="3">○「進学重視型単位制」は近年、県立の多くの単位制高校にも見られるようになってきた。
今後、２期制における単位の半期認定等、より発展的で、生徒にとって有意義な教育課程を検討していくことが必要である。p.4</td></tr>
<tr><td>アンケート調査</td><td>○「進学指導を重視し授業時数が多く、教科指導が熱心に行われている」という設問に生徒の51%(74%)p.9・保護者の77%(82%)p.12が「満足」と回答している。
○「単位制で多様な科目から適性や進路希望等に応じて選択して学習できる」という設問に生徒の54%(76%）p.9・保護者の83%(79%）p.12が「満足」と回答している。
○卒業生の83%p.15が自分の希望どおりにカリキュラムを組むことができたと回答している。また、「科目選択をするに当たり十分なガイダンスが行われている」という設問に、生徒の73%(81%）p.9・保護者の84%(80%）p.13が「満足」と回答している。</td></tr>
<tr><td>聞き取り調査</td><td>○単位制導入により、学校設定科目の増加や幅広い選択科目の設定が実現し、生徒のニーズに対応した教育課程の編成が可能になるとともに、進路意識改革にもつながっている。p.4
○単位制ではあるが、科目選択では類型に分け、道筋を示して生徒に選択させている。そのことで生徒は、興味関心や進路ニーズに対し、的確に対応した授業を選択している。p.4</td></tr>
<tr><td>考察</td><td colspan="3">※多様な進路ニーズに対応した「進学重視型単位制高等学校」という改革は、大きな成果を上げている。
○「科目選択に伴う類型化」や「単位制」を導入するとともに、ガイダンス機能を徹底させており、生徒が自分の進路ニーズに応じた科目を選択し学習計画を立てることができている。
○一方で、高校改革がスタートして７年が経過し、教職員の入れ替わりも起こり始めているが、教員人事が公募制ではないため、SSHや教科指導上の核となる教員がなかなか集まらない。今後、人材確保面での改善が課題である。</td></tr>
</table>

No	項目	成果		課題	
3	理数教育の伝統	意見交換会	○在学中にJSEC2010(高校生による科学研究に関するコンテスト)の協賛社賞を受賞し、理系大学へ進学した卒業生がいる。p.3	聞き取り調査	○今後、SSH第２期後の理数教育の成果や伝統をどのように継承していくかが課題である。p.5
		聞き取り調査	○第２期SSH(平成２４年度～)では、プレゼンテーションやネイティブ実習助手による言語活動を充実させ、市立高校ならではの市の施設 （動物公園、科学館など） との連携も着実に進んでいる。p.4 ○外国人理科実習助手・留学生ティーチングアシストを導入し、英語での理科授業及びプレゼンテーションが行なわれ、国際的な視野に立てる人材の育成に役立っている。p.4 ○「SSHの市立千葉」というイメージが外部に広がりつつある。教職員の中でSSHが共通認識の柱になり、良い刺激になっている。p.4		
		考察	**※理数教育の伝統や成果が生徒へ十分に浸透し、進路意識の啓発につながっている。** ○理数教育に対する卒業生や保護者の満足度は、高く、平成２５年度３年生の理系進学希望者は50%と非常に高い。また、２４年度に４年制大学に進学した卒業生のうち35%が理系大学に進学している。		

No	項目	成果		課題	
4	文武両道の伝統など	基本調査	○部活動加入率は、平成１６年度の77.3%に対して、２２年度は91.9%、２４年度は97.3%と上昇している。p.2	聞き取り調査	○進学校の部活動として、家庭学習の時間を確保することも大切であり、対応を検討する必要がある。p.6
		アンケート調査	○「文武両道で部活動が盛んである」という設問に生徒の76%(76%) p.10、保護者の87%(76%) p.13が「満足」と回答している。 ○「学校行事が充実している」という設問に生徒の71%(62%) p.10、保護者の92%(77%) p.13が「満足」と回答している。		
		聞き取り調査	○全学年、通年で行われている進学補習(朝及び放課後に実施)に多くの生徒が受講しており、夏季休業中にも26講座の進学補習が行われている。p.6		
		考察	**※文武両道の伝統は引き継がれている。** ○生徒は部活動や行事に自覚と自信を持ち、参加し、主体的な活動を行っている。		

<table>
<tr><th>No</th><th>項目</th><th colspan="2">成果</th><th colspan="2">課題</th></tr>
<tr><td rowspan="4">５</td><td rowspan="4">中学校現場や地域へのアピールなど</td><td>アンケート調査</td><td>○「受検に当たり、市立千葉高校の特色を高校（説明会及びホームページ）から知った」と回答した者が、生徒の49%[説明会38%＋ホームページ11%] p.8(順に34%/25%/9%)・保護者の55%[説明会46%+ホームページ9%] p.12(39%/32%/7%)と一番多い。
○卒業生の63%が、「市立千葉高校の魅力や特色は、学外の友人等に知られている」と回答している。p.16</td><td rowspan="3">意見交換会</td><td rowspan="3">○文化祭は高校の内容を見る良い機会であり、毎年７月に実施しているが、その時期は中学３年生が最後の総合体育大会前に当たってしまうため、見学に行きにくいという課題がある。P.3</td></tr>
<tr><td>意見交換会</td><td>○２５年８月に千葉都市モノレール車両の車内ポスターによる研究成果の発表や、同年９月に千葉都市モノレール千葉駅で生徒作品の展示を行い、好評を得た。p.3
○市内の小・中学校には、市立千葉高校の施設利用をアピールしており、今年の夏には市教研の理科の教員127名が来校し、学校を知る良い機会になった。p.3</td></tr>
<tr><td>聞き取り調査</td><td>○昨年、２回のSSH交流会（千葉市クロススクール科学フェスティバル・同フォーラム）により、異校種間の児童生徒の連携を深めるとともに、小・中学校の先生方との重要な交流の機会になった。p.5
○生徒会がクリーンアップ活動を主催したり、ダンス部、吹奏楽部及び合唱部等が、小仲台フェスティバル、小仲台地区敬老会、モノレール祭り、稲毛駅前でのコンサート等に参加したりして、地域との連携活動を行った。p.6
○SSH専用ホームページを作成し、地域へのアピールを積極的に行っている。p.6</td></tr>
<tr><td>考察</td><td colspan="3">※地域や中学校現場に、さまざまな形でのアピールがなされている。さらに市立高校ならではのアピールも検討する必要がある。
○千葉都市モノレールとの連携やSSH交流会の開催をはじめ、授業の公開、ホームページの活用、地域活動への参加等様々な方策により、市内の小・中学校及び市民に対してＰＲに努めているが、特色や成果等をより一層ＰＲするための手法を研究する必要がある。
○中学生や中学校の教員に見てもらうような、市立高校の良さを生かした積極的な授業公開等を検討していく必要がある。</td></tr>
</table>

No	項目	成果と課題	
６	学校現場からみた市立高校改革の方向性	考察	**※市立高校改革における「進学重視」「単位制」「理数教育重視」は、大きな成果を上げている。** ○進学重視型単位制により、教員の定数が増え、多様な選択科目の実施やSSHなどの特色ある教育が実現できている。 ○１年からの進学指導を重視しているため、受験科目の多い国公立大学進学希望の生徒が多く、実際に合格する現役生徒も増加している。 ○理数教育重視が、生徒や保護者にも十分に浸透しているため、理系大学を希望する生徒の比率（平成２５年度３年生の50%）が高く、生徒の多く（４年制大学に進学した２４年度の卒業生の35%）が理系大学に進学している。 **※SSHの指定など文部科学省と学校との施策調整を行うため、教育委員会事務局の組織体制の強化が必要である。** ○国からの研究指定は、当該校の成果に留まらず、地域全体に効果が波及していくことが求められている。また、多額の予算が手当てされることもあり、教育委員会事務局の組織体制の強化や、学校とのより強い連携が必要になっている。 **※市立高校改革をさらに進めるための教員の確保が課題である。** ○SSHを実施するに当たっては、高い専門性、指導力、企画力の備わった理数科教員が必要である。そのため、県立船橋高校などのSSH実施校では、教員の公募制をとっている。しかし、市立千葉高校は、現時点で公募制をとっていない。SSHを推進する教員を引き続き確保するための手立てが必要である。

２　市立稲毛高校・附属中学校

※表中の「満足」の割合は、アンケート調査結果の「とても満足している」と「やや満足している」を合わせたものである。

※表中の「重視」の割合は、アンケート調査結果の「とても重視した」と「やや重視した」を合わせたものである。

※アンケート調査結果の(　)内の数値は、平成２２年度に行った中間まとめの時の数値である。

※表中のページ番号は、別冊「資料編」の参照ページを表している。

※考察は、「研究会」の中で出された意見を基本としている。

No	項目	成果		課題
1	全体としての改革の成果	アンケート調査	○「総合的に判断すると附属中学校に満足している」という設問に、生徒の93％(85％) p.32・保護者の97％(97％) p.36、卒業生のうち内進生の87％・外進生の81％が「満足」p.38と回答している。 ○「中学特別教室棟や高校の施設設備を使うことができる」という設問に、内進生の87%(80%) p.32・その保護者の92%(90%) p.36が「満足」と回答している。	
		聞き取り調査	○海外の語学研修受入れ校において、日本文化をリサーチした結果を生徒が発表し、極めて高い評価を得た。p.27	
		考察	**※学校への満足度は高く、全体として改革は良好な成果を収めている。** ○内進生と外進生が、お互いに向上心をもち、学習活動を行っており、大学進学の実績も高い成果が上がっている。 ○教育熱心な職員のもと、質の高い授業が行われ、それに生徒が積極的に参加している。 ○校内の約25％の生徒が海外語学研修を経験している。また、真の国際人の育成に向け、英語力の育成だけでなく、社会人基礎力※の養成をメインにした取組が行なわれている。	

※社会人基礎力：「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つの能力（12の能力要素）から構成されており、「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」として、経済産業省が2006年から提唱している。企業や若者を取り巻く環境変化により、「基礎学力」「専門知識」に加え、それらをうまく活用していくための「社会人基礎力」を意識的に育成していくことが今まで以上に重要となってきている。

<table>
<tr><th>No</th><th>項目</th><th colspan="2">成果</th><th colspan="2">課題</th></tr>
<tr><td rowspan="4">２</td><td rowspan="4">真の国際人を育成する中高一貫教育</td><td>アンケート調査</td><td>○「真の国際人の育成を目指して心と体の教育も充実している」ことに「満足」と回答した生徒が85%(73%) p.31・保護者が96%(90%) p.34と増加している。
○「先進的な英語教育」へ「満足」と回答した生徒が93%(83%) p.31・保護者が98%(92%) p.35と高い割合を示している。
○内進の卒業生は「先進的な英語教育」が最も稲毛高校の魅力であると回答している。p.38</td><td rowspan="3">聞き取り調査</td><td rowspan="3">○現在、交流校が７校あるが、それらすべての学校との交流は、スタッフ面・資金面で不可能である。現在、３校のみと姉妹校交流しているが、今後、拡大が望まれる。p.27</td></tr>
<tr><td>意見交換会</td><td>○専門性の高い学習が営まれており、直接、海外の大学に進学する生徒は多くはないが、国際系や海外留学に実績のある大学に進学し、海外へ出ていく卒業生は増加している。p.25</td></tr>
<tr><td>聞き取り調査</td><td>○英語ディベートを学ぶ学校設定科目（エッセンシャルイングリッシュⅡ）の実施により、生徒は語学だけではなく、思考力や表現力の向上につながっている。p.27
○海外語学研修（オーストラリア）に参加することで生徒の英語に対する見方が変わり、GTEC※の得点が上昇し、その後の英語力飛躍につながった。p.27
○「第５回千葉県高校生英語ディベート大会」（平成２５年１１月・成田国際高校で開催）第１位「第８回全国高校生英語ディベート大会in長野」（平成２５年１２月・松本大学で開催）第２１位。p.27</td></tr>
<tr><td>考察</td><td colspan="3">※「真の国際人を育成する中高一貫教育」という改革は良好な成果を上げている。
○引き続き、Call教室※やネイティブ講師を活用した先進的な英語教育の充実を図るとともに、様々な体験活動を通じて、単なる知識やスキルだけではない「人格の育成を含めた教育」を行っている。
○コミュニケーション能力の育成に努めてきた結果、自分の意見を持ちきちんと発言している生徒の姿を見ることができ、大きな成果を上げている。</td></tr>
</table>

※GTEC： Global Test of English Communication for Studentsの略称。中高生が入試で必要な英語力、さらに社会・留学先でも使える英語力を育むことを目的としている。英語を実際に使うことを重視した問題で、「読む、聞く、書く」の３技能を測定する。絶対評価なので、技能別英語力の伸長度がわかり、多くの中学校・高校で利用されている。

※Call教室 ：CallはComputer Assisted Language Learning の略語。学力の向上及び外国語の授業支援、語学の自学自習 のため、ＰＣやヘッドセットを備えた教室のこと。

<table>
<tr><th>No</th><th>項目</th><th colspan="2">成果</th><th colspan="2">課題</th></tr>
<tr><td rowspan="3">３</td><td rowspan="3">中高６年間の継続的な指導</td><td>アンケート調査</td><td>○「６年間の継続的な学習指導と先取り教育」等に対して、「満足」と回答している生徒は85%(82%) p.31・保護者は93%(91%) p.35であり、中間まとめ調査時点に比べ増加している。
○「高校の先生による専門的な指導を受ける」ことに「満足」と回答した生徒が79%(79%) p.31・保護者が84%(79%) p.35である。
○「授業を工夫したり、補習を充実させたりして、生徒が理解できるよう努力している」という設問に対して「満足」と回答した生徒が84%(71%) p.32・保護者が84%(77%) p.35である。
○中学入学時に「中高共同の活動」を重視した生徒は62%(53%) p.30であるが、実際に中高共同の学校行事や部活動、生徒会活動を経験した結果、満足は91%(78%) p.32と上昇している。</td><td rowspan="2">聞き取り調査</td><td rowspan="2">○平成２５年度から普通科の教育課程が統一されたことに伴い、内進生と外進生の学習進度の違いを考慮し、中高の教育内容全体を検討していくことが必要である。p.27</td></tr>
<tr><td>聞き取り調査</td><td>○GTECは毎年７月に中学２年生以上の全生徒が受検しており、２５年度、高校３年の内進生の平均スコアは594点（英検２級相当レベルは570点以上）であった。当初の目標は「高校２年までに英検２級に全員合格」を揚げていたが、学校として、現在、英検は個人受検でという位置づけにしていることもあり、当初の目標は達成できていると考えている。p.27
○内進生と外進生は、お互いが刺激しあい、高校の進路実績では改革前よりも伸びている。p.28</td></tr>
<tr><td>考察</td><td colspan="3">※中高６年間の継続的な指導は良好な効果を上げている。
○６年間の継続的な学習指導や先取り教育、先進的な英語教育、高校の先生による専門的な指導などにより、生徒の学力向上が図られており、生徒・保護者の満足度は高く、中間まとめ時よりも更に上昇している。
○教育熱心な職員の指導のもと、質の高い授業が行われ、それに生徒が積極的に参加しており、進路実績においても成果が上がっている。
○内進生も外進生も、真の国際人を目指す教育目標のもと、互いに切磋琢磨し、充実した学生生活を過ごしており、その成果も上がっているが、ともすると「内進生重視」という見方をされてしまう場合があるため、今後、より一層の工夫が必要である。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>No</th><th>項目</th><th colspan="2">成果</th><th colspan="2">課題</th></tr>
<tr><td rowspan="4">4</td><td rowspan="4">文武両道の伝統など</td><td>基本調査</td><td>○平成２５年度附属中学校生徒240人中延べ232人の生徒が部活動に加入している。p.21</td><td rowspan="3">聞き取り調査</td><td rowspan="3">○中学と高校の行事日程を組合せて計画することが難しい場合がある。
p.28</td></tr>
<tr><td>アンケート調査</td><td>○「高校生と共同の学校行事や部活動・生徒会活動が充実している」ことに「満足」と回答した生徒が91%(78%) p.32・保護者が87%(76%) p.35である。
○外進生の卒業生は、市立稲毛高校の魅力や特色として「文武両道」と「先進的な英語教育」を揚げている。p.38</td></tr>
<tr><td>聞き取り調査</td><td>○内進生は高校入試がなく、継続して部活動ができるため、高校になり活躍している部活動も見られる。p.28
○平成２４年度は高校の野球部が県大会ベスト１６、バドミントン部が県大会ベスト８、ダンスドリル部が全国大会に出場している。p.28
○中学校の野球部やサッカー部の練習場所が課題となっていたが、２４年度までは公営施設を借用して対応していた。平成２８年度から、隣接する学校跡施設を附属中学校で活用することが決まっている。p.28
○中間まとめにおける「中学３年生としての自覚の形成」の課題に対し、高校とは別に中学は、学年別に生徒会を組織して独自の活動を行っている。また、中学３年生については、学校評議会の中心メンバーとして、文化祭をはじめ各種校内行事の運営に積極的に関わることで、集団における統率力や中学最高学年としての自覚を育成している。p.28</td></tr>
<tr><td>考察</td><td colspan="3">※文武両道の伝統は引き継がれ、６年間のつながりを生かした中高共同の活動が充実している。
○中学校から継続して部活動を実施することができ、高校生になり、その当該活動の中核を担う生徒も多い。
○１月中旬から３月中旬まで中高の入試期間が続くため、その間、部活動が継続して活動できないといった短所が生じている。
○多くの部活動が中高一緒に活動しており、中学生は高校生から大きな刺激を受けている。
○部活動の活動場所が不足している課題については、近隣の施設や小学校跡施設の校庭や体育館を使用することで対応を図っている。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>No</th><th>項目</th><th colspan="2">成果</th><th colspan="2">課題</th></tr>
<tr><td rowspan="5">5</td><td rowspan="5">教育ニーズの多様化への対応</td><td>基本調査</td><td>○附属中学校における入学者選抜の倍率は、開設時以来、10倍を超えている。P.20</td><td rowspan="4">意見交換会</td><td rowspan="4">○公立中等教育学校及び併設型中学校の入学者選抜については、学校教育法で学力検査を行わないことになっている。そのため適性検査を実施しているが、入学後の生徒の学力差が課題となっている。P.26</td></tr>
<tr><td>アンケート調査</td><td>○受検に当たって「高校受検がなくそのまま稲毛高校へ進学できる」ことを「重視」した保護者が82%(84%) P.33と減り、「真の国際人の育成」88%(86%) P.33、「６年間の継続的な学習」94%(88%) P.33、「先進的な英語教育」94%(87%) P.33が上昇している。
○入学後も「高校受検を意識せずに学習や諸活動に取り組むことができる」ことに対する満足度は、生徒で92%(94%) P.31・保護者で94%(90%) P.34となっている。
○「生活に関する相談や指導が充実」の問いに対する満足度は生徒で69%(51%) P.32・保護者で84%(69%) P.36と、中間まとめ時より上昇している。</td></tr>
<tr><td>意見交換会</td><td>○附属中学校に入学を希望する児童は多いが、倍率が高く、入学しにくい状況がある。P.26
○「真の国際人の育成」という学校の特徴を理解した、本当に入学したいと思っている生徒が入学できると良い。P.26</td></tr>
<tr><td>聞き取り調査</td><td>○特に英語と数学については、教科担当レベルでの個人指導を通年で実施している。また、高校生になってからも、中学の先生が成績不振者を対象に課外補習を実施している。P.28
○今年度から養護教諭が１人増員になり、中高３人体制になったため、従来のスクールカウンセラーに加えて相談体制が強化された。P.28</td></tr>
<tr><td>考察</td><td colspan="3">※教育ニーズの多様化の中、附属中学校の成果は受検生やその保護者に着実に伝わっており、公立中学校の新たな選択肢として定着している。
○附属中学校へ進学を希望する児童は毎年多く、中間まとめに比べ、「真の国際人の育成」、「６年間の継続的な学習」、「先進的な英語教育」等の特色をよく理解して入学する生徒・保護者が増加している。また、進学後も附属中学校の特色に対する満足度は高い。
○入学後の学力差や、メンタル面のケアに対しても、担任やスクールカウンセラーによる個別相談及び養護教諭の増員で対応している。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>No</th><th>項目</th><th colspan="2">成果</th><th colspan="2">課題</th></tr>
<tr><td rowspan="4">6</td><td rowspan="4">小学校現場や地域へのアピールなど</td><td>アンケート調査</td><td>○保護者のうち、「受検に当たり附属中学校の情報を附属中学校（説明会及びホームページ）から知った」と回答した者が全体の71%[説明会64%+ホームページ7%] P.34と一番多い。なお、生徒は保護者から知ったと回答した者が一番多く、46%(44%) P.30となっている。</td><td>アンケート調査</td><td>○保護者のうち、「受検に当たり附属中学校の情報を小学校の先生から知った」と回答した者が全体の1%(2%) P.34であり、生徒では2%(10%)と非常に少ない。P.30</td></tr>
<tr><td>意見交換会</td><td>○文化祭で実施した三線演奏やエイサー等は、文化祭後も様々なところで披露し、好評を得ている。P.26</td><td rowspan="2">意見交換会</td><td rowspan="2">○文化祭は高校の内容を見る良い機会であり、毎年７月に実施しているが、その頃は中学３年生が最後の総合体育大会前に当たってしまうため、見学に行きにくいという課題がある。P.26
○国際教養科は普通科に勝るとも劣らない実績を残している。その進路路実績等をもっと強調して外部に伝えていく必要がある。P.26</td></tr>
<tr><td>聞き取り調査</td><td>○小学校の児童・保護者向けには、学校説明会と学校見学会を７月と１１月に実施している。小学校の教員に対しては、職員向け説明会で、学校の紹介と出願方法の説明をしている。P.28
○千葉市教育研究会国際理解部会等、本校を参観したい希望があれば受け入れており、中学校職員の初任者研修でも授業を公開している。P.28
○吹奏楽部やESS等の部活動は、近隣の小中学校との交流活動を行っている。P.28
○中学１年生は「地域を知る活動の一環」として稲毛の浜の清掃活動を行っている。また、中学２年生は職場体験学習で、地域の各事業所に受け入れていただいている。P.28</td></tr>
<tr><td>考察</td><td colspan="3">※改革の大きな成果を、より外部へ発信することが必要である。
○中間まとめの課題を踏まえて、各種説明会・学校公開・近隣小中学校との交流活動等さまざまな方策がなされており、学校の特色が受検生やその保護者に伝わっている。また、今後、改革による生徒の大きな成果を、より外部へ発信することが必要である。
○引き続き、同じ市立の学校として、附属中学校のことをもっと知り、交流を図ろうとする小学校側からの働きかけも必要である。</td></tr>
</table>

No	項目	成果と課題	
7	学校現場からみた市立高校改革の方向性	考察	**※市立高校改革における「真の国際人を育成する中高一貫教育」は大きな成果を上げている。** ○英語に対する豊富な学習量に支えられた語学力を基盤に、学校設定科目（エッセンシャルイングリッシュⅡ）や、キーワードだけを使ったプレゼンテーションの訓練により、英語による表現力や思考力が習得できている。 ○帰国生徒は少ないものの、校内の約25％の生徒が海外語学研修の経験をもち、ネイティブ教員に積極的に指導を仰ぎ、県スピーチコンテストで優勝したり、日本文化のリサーチに基づいた発表を行ったりして、海外の学校でも高い評価を受けるといった成果も出ている。 ○生徒の知識や技能の習得に加え、思考力・判断力・表現力等のバランスのとれた「生きる力」の育成が行われており、社会人としての基礎力の養成にもつながっている。 **※大きな成果に対する外部への発信がより必要である。** ○さまざまな成果を本校生徒だけで享受するのではなく、より外部の学校や教育機関にアピールすることが必要である。 **※海外語学研修の受け入れに対する課題がある。** ○生徒の海外語学研修は大きな成果を上げており、海外の学校からの評価も高い。現在、交流校が７校あるが、それらすべての学校との交流は、スタッフ面・資金面で不可能である。現時点では、３校のみと姉妹校交流しているが、今後、拡大が望まれる。 **※内進生重視という見方をされてしまう課題がある。** ○市立稲毛高校では普通科の内進生・外進生のほか、国際教養科の生徒や附属中学校の生徒が一緒に学習している。すべての生徒に満足してもらえる学校経営を行っており、進路状況等、それぞれの相乗効果もでているが、一方で、内進生重視という見方をされてしまうケースがあり、今後の課題となっている。 **※入学者選抜の形態等で生じている課題がある。** ○１月中旬から３月中旬まで中高の入試期間が続くため、授業や部活動に制限が出たり、職員の業務量が増加したりするなどの課題が生じている。 **※市立高校改革をさらに進めるための教員の確保が課題である。** ○中学校の職員は県費負担教職員であり、高校は市費負担教職員となっていることから、勤務条件等の違いが生じている。都道府県から指定都市への権限移譲（補）を見据えながら、一方で優秀な教職員を確保するための公募制の検討も必要である。 （補）市町村立小中学校等に係る県費負担教職員の給与等の負担・定数の決定・学級編成基準の決定に係る権限について、都道府県から指定都市への移譲が平成25年12月20日に閣議決定している。

Ⅳ　最終まとめを終えて

平成２５年度に実施した本市高等学校改革の評価・検証結果を改めて整理すると、次のとおりとなる。

１　中間まとめにおける改革の課題への対応

（１）学校の特色や改革の成果等のアピールについて

両校とも各種説明会、学校公開、近隣小・中学校との交流活動等の実施に加え、市立千葉高校では、千葉都市モノレール車両の車内ポスターによる研究成果の発表や、同モノレール千葉駅構内での生徒の作品展示、SSH専用ホームページの開設等を行った。

また、市立稲毛高校・附属中学校では、千葉市教育研究会国際理解部会の開催に向けた協力や、市内中学校職員の初任者研修における授業公開、文化祭で好評を得たエイサーと三線演奏を地域でも披露するといった積極的な活動を行った。

（２）市立稲毛高校・附属中学校の施設設備の改善について

昨年度まで、部活動等の活動場所については、千葉市中央卸売市場のグラウンドを借用し、対応していたが、平成２８年度より、隣接する高浜第二小学校跡施設の校庭と体育館を附属中学校で活用することとした。

２　改革の成果

（１）市立千葉高校における主な成果

①　進学重視型単位制の導入に伴い、教員の加配が認められ、多様な選択科目の開設やSSHなどの特色ある教育が可能になった。

②　「充実した施設・設備」に対する満足度が高く、「１日７限授業」や「生徒の学習ニーズに対応した選択教科」の導入が、生徒の学ぶ意欲の向上につながった。現役生の４年制大学への進学率や国公立大学合格者数は、順調な伸びを示している。

③　理数教育の伝統や成果が生徒へ十分に浸透しており、理系大学に進学を希望する生徒の比率が高く、実際に進学する生徒も多い。

④　文武両道の伝統は引き継がれ、生徒は自覚と自信を持ち、部活動や行事に参加し、主体的に活動を行っている。

（２）市立稲毛高校・附属中学校における主な成果

①　「真の国際人を育成する中高一貫教育」「中高６年間の継続的な指導」「先進的な英語教育」は、生徒・保護者・卒業生に高い満足度が得られている。

②　先進的な英語教育と６年間の継続的な指導により、高い英語力とコミュニケーション能力が育成されている。

③　進路実績において、現役生の４年制大学への進学率や国公立大学合格者数は順調な伸びを示している。

④　部活動や学校行事等、６年間のつながりを生かした中高共同の活動が充実しているため、入学前の期待度以上に高い満足度が得られている。

「基本方針」に基づく本市の高等学校改革は、良好な成果を収めている。

① 市立千葉高校及び市立稲毛高校・附属中学校は、進路ニーズや教育ニーズの多様化へ適切に対応できており、生徒・保護者・卒業生に高い満足度が得られている。

② これまでの文武両道の教育の伝統と、市立千葉高校における「多様な進路ニーズに対応した進学重視型単位制」及び市立稲毛高校・附属中学校の「真の国際人の育成を目指す中高一貫教育」という改革の特色が調和し、良好な成果を収めている。

③ 教育活動に対する行政の支援と、教育熱心な教職員の指導の下、質の高い授業が行われ、生徒が積極的に授業に参加していることにより、教育効果が上がっている。

３　課題

（１）市立高等学校改革の成果等におけるさらなるアピール

・市立高等学校の成果や効果をより地域全体へ波及させるために、積極的な授業公開や文化祭の開催時期を検討するとともに、地域との連携を強化し、外部の学校や教育機関にも成果の発信をする必要がある。

（２）市立高等学校改革の実効性を高める上での優秀な人材の確保

・改革後７年が経過し、改革当初から勤務する教職員は、異動により入れ替りが生じつつある。今後も、先進的な理数教育や英語教育を継続していくためには、引き続き優秀な教職員を確保することが必要であり、公募制の実施に向けて検討する必要がある。

・実効性のある取組が可能となるように、教職員の増置など配置の改善や実施方法の工夫が必要である。

（３）教育課程上の課題に対する手立て

・市立千葉高校における進学重視型単位制のメリットを更に生かし、達成度テスト（仮称）など大学入試改革に対応した教育課程の編成に向けた検討を行う必要がある。

・市立稲毛高校においては、平成２５年度から普通科の教育課程が統一されたことに伴い、内進生と外進生の学習進度の違いを考慮した、中高の教育内容全体を検討していくことが必要である。

（４）教育委員会事務局の組織体制の強化

・課題への対応を図り、より魅力ある市立高等学校づくりを推進するために、教育委員会事務局の組織体制の強化や学校とのより強い連携が必要である。

〈検討すべき主な課題〉

短期的に対応を必要とするもの

○学校の成果等についてのさらなるアピール

○有意義な教育課程の編成を行える環境の整備

○進学校としての部活動と家庭学習時間の確保

中・長期的に検討を必要とするもの

○優秀な教職員の確保

○教育課程上の課題への手立て

・単位制のメリットをより生かした、発展的な授業編成等の検討(市立千葉高校)

・内進生と外進生の学習進度の違いを考慮した中高の教育内容全体の検討(市立稲毛高校・附属中学校)

○教育委員会事務局の組織体制や学校との連携の強化

○第２期SSH後における理数教育成果の継続(市立千葉高校)

○附属中学校の入学者選抜のあり方(市立稲毛高校・附属中学校)

４　今後の方向性

平成１７年６月に策定した「千葉市立高等学校改革基本方針」に基づき、市立千葉高校及び市立稲毛高校は、「多様な進路ニーズに対応した進学重視型単位制高等学校」と「真の国際人を育成する中高一貫教育校」に生まれ変わった。

そして、改革後７年が経過し、SSH事業や海外語学研修をはじめとする国際理解教育の成果等により、生徒の進路実績や学校生活に対する満足度が両校とも上昇している。

一方、平成２３年６月に本市では、「科学都市戦略事業方針」を策定し、「科学都市ちば」の実現に向けた取組を推進している。そのためにも、市立千葉高校は、今後、千葉市における小・中学校の理数教育をリードする役割を担い、理数教育の核となる学校を目指すことが求められており、その役割は一層重要なものになっている。

また、昨年、文部科学省では平成３２年の東京オリンピック・パラリンピック開催を見据え、新たな英語教育が本格展開できるように、「グローバル化に対応した英語教育改革計画」を公表し、英語教育の体制整備を行うとともに、日本人としてのアイデンティティに関する教育の充実を推進している。すでにグローバル化に対する先進的な取組を行い、高い成果を上げている市立稲毛高校・附属中学校においては、今後も「真の国際人を育成する教育」に励み、より発展することが期待される。

この「最終まとめ」では、これまでの成果と課題を改めて洗い出してきたが、この検証を踏まえ、これからの市立高校のあり方やその姿を実現していく上で必要となる対応を検討していく必要がある。

平成２５年度千葉市立高等学校改革　評価・検証研究会

１　構成員

番号	所　　属	職	氏　名	備　考
1	教育総務部企画課	課長	大崎　賢一	議長
2	学校教育部学事課	課長	小川　彰	副議長
3	千葉市立千葉高等学校	校長	三木　千恵子	
4	千葉市立稲毛高等学校・附属中学校	校長	山本　昭裕	
5	千葉市中学校長会代表（おゆみ野南中学校）	校長	重田　裕一	
6	千葉市小学校長会代表（園生小学校）	校長	三野宮　純一	
7	学校教育部教職員課	管理主事	根本　厚	
8	学校教育部指導課	指導主事	平野　正春	
9	学校教育部指導課	指導主事	山口　喜弘	
10	学校教育部保健体育課	指導主事	岸平　直子	
11	千葉市教育研究会代表（長作小学校）	教諭	鳥海　亮	

２　「中学校長代表対象意見交換会」参加校長

番号	学　校　名	氏　名	千葉市小中学校長学校運営協議会役職
1	生浜中学校	佐藤　好美	理事
2	若松中学校	實川　純一	進路指導委員会専門委員長
3	大宮中学校	四ノ宮　貫	進路指導委員会副委員長
4	山王中学校	小林　一茂	進路指導委員会委員
5	稲毛中学校	大木　茂	進路指導委員会委員

３　「小学校長代表対象意見交換会」参加校長

番号	区	学校名	氏　名	千葉市小中学校長学校運営協議会役職
1	中央区	松ケ丘小学校	町井　公明	総務委員
2	花見川区	瑞穂小学校	川田　文和	総務委員
3	稲毛区	稲毛小学校	塚原　久江	総務委員
4	若葉区	若松小学校	長谷部　敏一	総務委員
5	緑区	平山小学校	及川　聖彦	総務委員
6	美浜区	海浜打瀬小学校	引地　清人	総務委員

４　事務局

番号	所　　属	職	氏　名	備　考
1	教育総務部企画課	統括管理主事	池田　亘宏	
2	学校教育部学事課	統括管理主事	森　　健	
3	学校教育部学事課	指導主事	植草　茂生	
4	教育総務部企画課	主査	小口　祐司	
5	教育総務部企画課	主査補	望月　宏次	

千葉市立高等学校改革の評価・検証
～最終まとめ～　本　編　平成２６年３月
千葉市教育委員会教育総務部企画課
学校教育部学事課
〒260-8730　千葉市中央区問屋町１－３５
千葉ポートサイドタワー１２階（企画課）
１１階（学事課）
043-245-5908（企画課）043-245-5928（学事課）